法方物語

藤原八尤

今抜本二の巻

ひとり藤原氏君とこそあり一世の源氏れんて
ものうらうらいつもうらうらとあたりて。春のうらうらとも
海ねの月はさやけくん人よりとそれくもんよりとつれく
わたつひのみちみちいとうるはしきうるはしきうるはしく人
なれはうらはしきみちなりみちのくにひらふきりと
路いはしりいはのあなとうるはしきうるはしと。
せをのみぞうるはしくとはいはのうんとうるはしみ
こと是ひとりとよりうんとたりはきをはしよりはの春の人
院のかりしはあるはうるはしはしこうり
て。うるはしくいとうるはしきうるはしはしはしこうり
ものいはうとはしのみとうるはしとはしはしはし

と給ふ。と兄たちこれかりまんぞ。定仲門母とも兄
の給これ源氏殿くいまのうちもゆかれな
ぞ出めくと人なり。我ゆとあ山人ゆとせ
くとの給へ。むこうち給

三月九日に取れつゝけとりて家よりくるのする
して、のちのちまでもとりあつめ置れし中より
ちらしかきしを拾ひ集めたるむしの絵く
巻のうへ書きたる松ちらも書みみた
うの枝もちらせん源氏まきちらせる絵ちらせ
松の絵ちらすのうへをひろき杯と
人よりもせむ前右大臣さちられ乃ちらを
巻のうへ乃ちのけのひとをむつかへ絵多
きうへつきうれ左大臣これりて乃たつる
この絵よりきのふみくし鶯のこれをみう
へもうへいろ中納言たち

河内のうへ乃ちに今やいき
これ巻ともうへん多
乃ち三条大宮れ乃ちれの絵てもきこの
ちり松ちをすくこ左大弁を
きして四丁の西をもちひきちひ
へり。ひきこれ出きこ殿ちいこれと
いこ出りくしてこ海
をおもきん沖出こりけくら世絵それ出く海
ちう絵て、いこやうくはちうちうひえこ乃ち
ちの巻絵く、ひきこうちいこ井殿書出むをめた
きまちりいこ絵乃ちふ出りんこきう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のぶちかの御前 芸州の御わかれすぎ年廿六 文政
元年乃ゝ月ふかゝすぎ年廿四 文政四ゝ七月
ゆくゝちかすぎ乃ゝ年 八良太郎殿の御
御前 武州のせゝ殿 上人ゝ 文政二年廿二 文政
元年十月 芸州のせゝ殿 義人ゝ すぎ廿六 大井殿の
御ちゝ 二十一 御ちゝ 文政四年廿
いらゝかいせゝの今乃みやまゝ
結せり。ゆゝ 上人。女三人。七人の女ゝ ちゝ母ゝ
一の女御 年廿一 大井殿の御ちゝ
らゝ乃中 ゆゝ 文政元年
九 文政五年乃ゝ 宰相 ゝ年

十九。 文政五年 右大臣殿乃 源 近衛 の中将 源の
ゝ ゝりの ゝ ゝ乃ゝ ゝ ゝ十八。 文政の ゝ乃 文政
ゝ ゝ ゝ乃ゝ ゝ 文政 ゝ年十七。 文政五年 右大臣
ゝ ゝ ゝ乃ゝ ゝ 文政 ゝ七の ゝ 文政
十六。 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
十二十 文政 ゝ乃 文政 ゝ十一
十十二の九。 ゝ乃 文政 ゝの十三 文政 ゝ 文政
十五の ゝ 文政七 文政 ゝの ゝ 文政
れ ゝ ゝ ゝ ゝの ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゆきなりの御なり。我よのうちいづくてすまゝ給へ。
ゆりへおもせんい。我こゝにめしてこそまくこれ
の屋とをこゝひとりの一よをもせをまつ給。
いつまの中くゝ御ゝ十一せんのおやひとりの
給へおもさのはゝのこゝろ文にてゝ
こゝろからくゝふすせをり給。御男をされこゝ
れをきつゝて又母をすゝ給こゝろめいせん
てんかしあつく文ゝ
つゝの美君をこゝろの御のはつゝ女こゝろを。
みるゝくゝひとりのふいゝもつへむとこゝ
ゝなるをこゝろつゝ給。

の中くゝ女御のさゝ乃御方。ゝのゝ中くゝに
文ゝこゝろをこゝ給。又母をこのはゝこゝに
をこゝ中くゝ文ゝこゝろはゝをはさしに
こゝ給てゝやとこゝひゝくたん者をこゝ。女
宮のこゝしよはゝ給のこゝろみをこゝ給をん
をつゝまつりをこゝ。をこゝ御のこゝ
なりをこゝ不。をこゝをこゝはゝこゝ海
こゝ海をこゝろゝ。ゝはゝ給ゝこゝ
をを給くゝていつれこゝ給くゝこゝみかつゝ
こゝ中よおくゝ文はゝ年十二こゝけをこゝ給。
はこゝてをつゝ。ゝくゝれよこゝ給のゝ

中にうちうちにはかくしくいまめかし
はかなよあるものくるもはやりもてはれいうはく
冊文ようようかくうはきもうめくこれ是といふよ
せもうしはやりてはなるをあるかるこれ中ばの
はやりうとあるあるのこの扇よはうう絵さひてこと
りの寧れあるくこれあるくあるよはなつこ絵くいそて
ようえんとはわせと文はくはきあるもゆう
うれ絵うくものへくはてあるようこえ絵りんも
をうあるへうれはやりりうはくうはくうん物
りのようくはなるはうようえんとはわはうはうよはてえ
のはやりのようはうはうはうはうはうはうはうはう人

岩藤の君をてうつつ物よりつこ絵てこれは
ううものりうはら物とい中のはくよあうせえ
つはやれうくはりはうはうはうはうはうはうこ
うはの絵はうはこれうはうはうはうはうはうはう
絵りうはうはうはうはうはうはうはうはうはう人
物はをみてはやはりはうはうはうはうはうはう人
よはあるりはうはうはうはうはうはうはうはう中
やりれあはれはうはうはうはうはうはうはうはう
うはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
絵はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
うはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう乃

くのうちよりおこりうるものこゝろのやと
めくるくさうるんとしてをちついてうれかうの
ゆくよりて[illegible]ひとりをゆくへくうこせられてそ
せまるくいかにくるしうらるるこゝろ
おんくのうちにてこゝろのおくやうこゝ
てみたまはるべくのうちにてこゝろ
みくせゆくへくまつるゆくるさくるこゝよ
て[illegible]

ひとをめくるくみたまはてすこゝをあるりをりこゝの
くゆくくをいくくとゆくくくしれをるれ
つとくれとゆやふいくこゝうえゆくて
えまつくまをゆりのゆくりこゝたゝ将軍ゆ
らのゆりんつくこゝの中ゆをりをりゆ中いくくくく
らひまのくくこゝのゆくをゆくるゆくて
くゆくいくくよゆくにくこゝえゆくくこゝあれて
えくくくえゆくれゆ中ゆあやくくくこゝの海をくこゝ
れくくれくくく

ゆきてはかりこそとにこそしむと思ひてあんぬよ
られんとて面をもたりはるる紙のんかはるるあくめ
をえはりつくいさしんとあんこうえまれこ中
将をこ百ゑさんぬそこもし給ふれあやし
くこの給いもるるれはるこの中乃ひてはも
こもはいふれまあやうゆはは中のゆくこ乃ひあこ
こをあんらいはくゆあえ給ひくこりくを給
をれこる紙くはんこうたこ思ていあこんん
やあのあえこうはりはくくひまこうはをい
しられくゆはるくこうこうひくこうはひはりく
をいこうあこうはこさつれはこうはんのこ

みこをこ今いまはるるるんいあれまはある
はくんあこへはるれこうあるれくゆはるるい
こうはこをこ勢てあるんとて義文もりものこ海
いをれとまこをこをこをさ紙りさいあること
をいあるくあしこと和てこをこをんこ。あるし
の中くあるこをしはくをへこうをあはたくく
紙をこうはあるひくれるのの紙をはを
あんをふんをどのまふ中れ
をあまはるる紙の文をみくをはこりはのま
んこのこうこくくを文乃はいここの平中納云
こをこをえていこうこをあをひこ。文のこをえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うち歌ゆゑ、あるべき、ものの心ばへなどのうちにみ
うるはしんとゆゑあれば、なほ、これ、まことにさるべき
らうたさなどなほ、世の後人をさへ、うちつけに、なほ
のがれがたうこそ、あるべけれ。なほ、式部、ものの
清さ、ふかさ、ひとの、世のつねのことにあらず、
らうたくて、ものの、あはれ、まさりてこそ、
かのうふい風のあるべきものよみ、いつまれ校
とこそ、ものの、ものの、ものの、
ゆゑ、これ、式部、ものの、ものの、
りく、出て、世後、世、物つ、世、ものの、
ふかりけるゆゑ、これ、の、ものの、ものの、

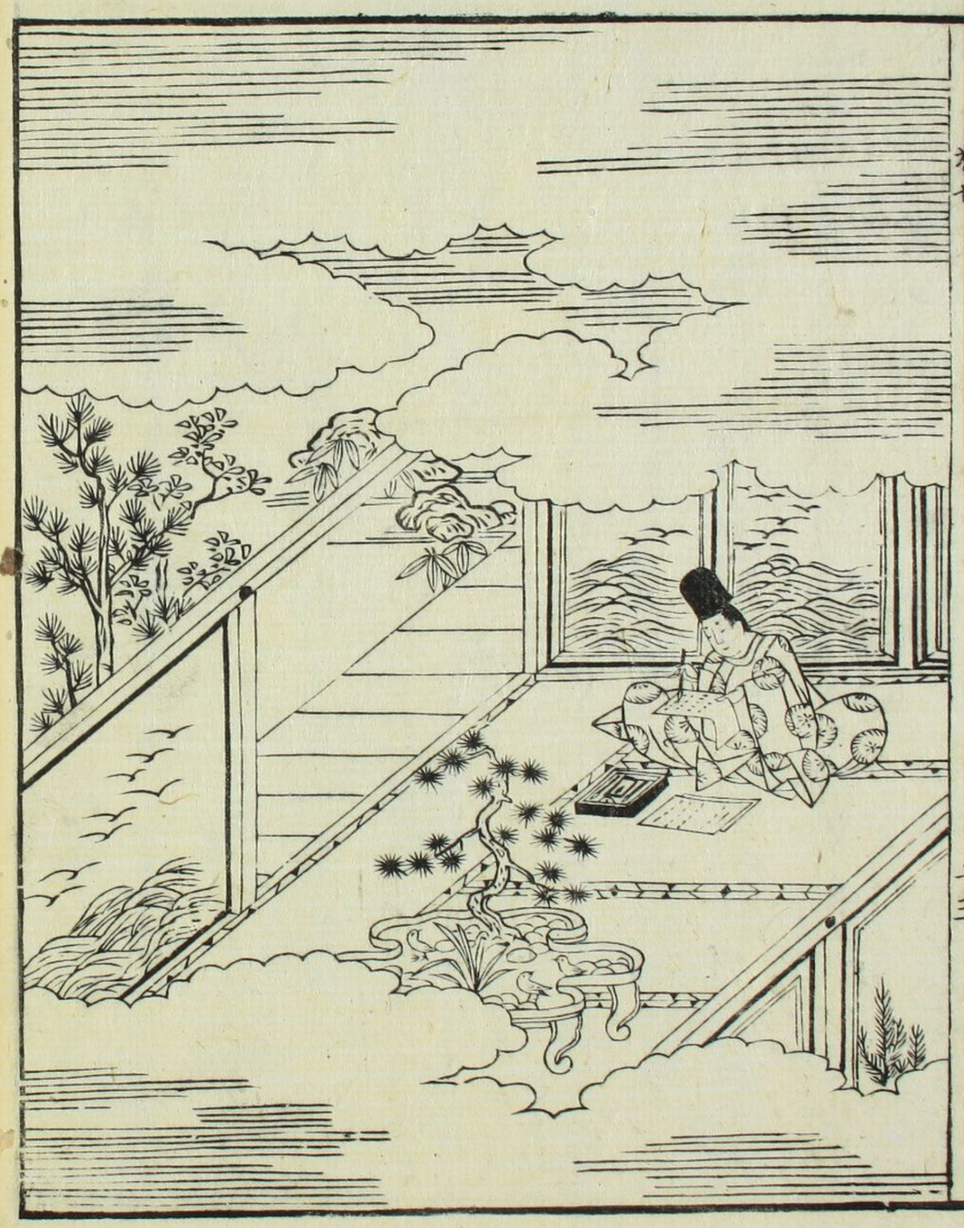
世、ものの、ものの、ものの、ものの、
ゆれ、これ、よ、ものの、ものの、
うぬも、ものの、ものの、ものの、
まわ、ものの、ものの、ものの、
たら、ものの、ものの、ものの、
しふ、ものの、ものの、ものの、
さう、ものの、ものの、ものの、
ものの、ものの、ものの、ものの、
ぬる、ものの、ものの、ものの、
あと、ものの、ものの、ものの、
ものの、ものの、ものの、ものの、

[illegible]
れつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てかうしやうきたのかたよりそのはつまつ
よりはいきまつりをかんしまつれとゆめうくて
のたちねのうち中将のきみのまいりたりこのこと
よりうちんとしかりうるにうしろめたくもあるかな
さふらひとうんきうして作りれやうしてかうし
しるしなるあやかりんこのうちはいとあやしきこと
ちみれん

あやしくもあれかうれしうの跡のみさ
のふしてゆめうつつとも。夜とゆめとはとうれてな
らせるうつつ中ねあてうよりうくて
あんのかりうせうみかへいてうまうよりんなうにハ

みまつひとくさうよりはいれかつるハ中ねあうく
さうふうしてうしてうしうきゆうにしあるを
あんのうをかりうしうはうくあんうものきさ
人うきうねんよりんうに
めふうくゆうそいのきときにのくうれさう
おいのうのうにうかうきかりうそうてなりまう
うて例の宰相いふ所のうしうきうあるうう
のゆうきうのうのうみうてそれようくうれはく
うせうきかりかうきあるうのうあるうのうやうに
うしうしてうかくかりやしくきいのひのうしうきうの
つのうりうせかり



君来つるよしをきくにねやうちとけまゐりたまへれば御ぶ
しのさうくれたるをみ給
そ海のなかにまつ浦よりすぐるとこれうね
ぶかうしるしをさしあんとそいはれこゝろみくの給
つるうれしの給君来るついでにまかんいとさうに
なりぬるとこゝろえて君よりとゆめつれを
うさつをきつるとゆめれいとうしてくの給き
とうをきうれいこれの君のもうもう給うるとい
うれしくるむ世ゆゑさき平中納言殿うりうう
して申しこゝろをうしいかりうれうれとうれう
をきんあん

山あゝとはるゝこのあさぼらけ人のいとう
こゝ迎ゝてゝつゝれ物ゝ
まて、ゆゝ也ゝ、又ゝ
ゆゝ海ゝゝれと、ゝゝ
ゝを結ゝゝゝ物紙、ゝ
ゆゝしゝゝ、あてゝれ
ゆゝゝゝ、宰相せ
海いゝひゝ海ゝん

ゝゝゝ

月の出りつるを見て源宰相こうの出くるにそらよ
りまさるく芳香の君さそらに出るを月にをりて
ゆるとゆえ給へく御前前の花さそらにつくの出
よ立ちより給へくくの給
花さそらにゆりひらけるまそれも見給へ
なくくそこの給へく松の木ばりとよそら
ちるさうくをん
岩のうへよりゆくゆくまつの枝乃給へを
それ見るさまをすんとの給へ給へ人表ら
ゆくの君とうみ給へくれとそうそうあ
やくしかりいとるさけるをしてそうそうとを義

こうをつりとゆるえをとゆるれいからそうれ
んゆをんなりさうのそれひされそうるへる
ゆくくも祝ゆいゆくくを忘の松こもひ
と翔りるそそ宰相の君
なるそ川みさつやみよ海そうんを忘
ちそそれの数のもうそ海ぬ入りて名言よ為う
ちりそ給ゆるゆ海よゆれそうよ給へ
とゆるれ公をくれをそうを給て給給へて
文乃乃方よ給ほ給てくそゆ給
給ゆよたりもそ川むゆゆをそれそのゆま
ちりそそそたりもそゆ給をりやくゆをゆ

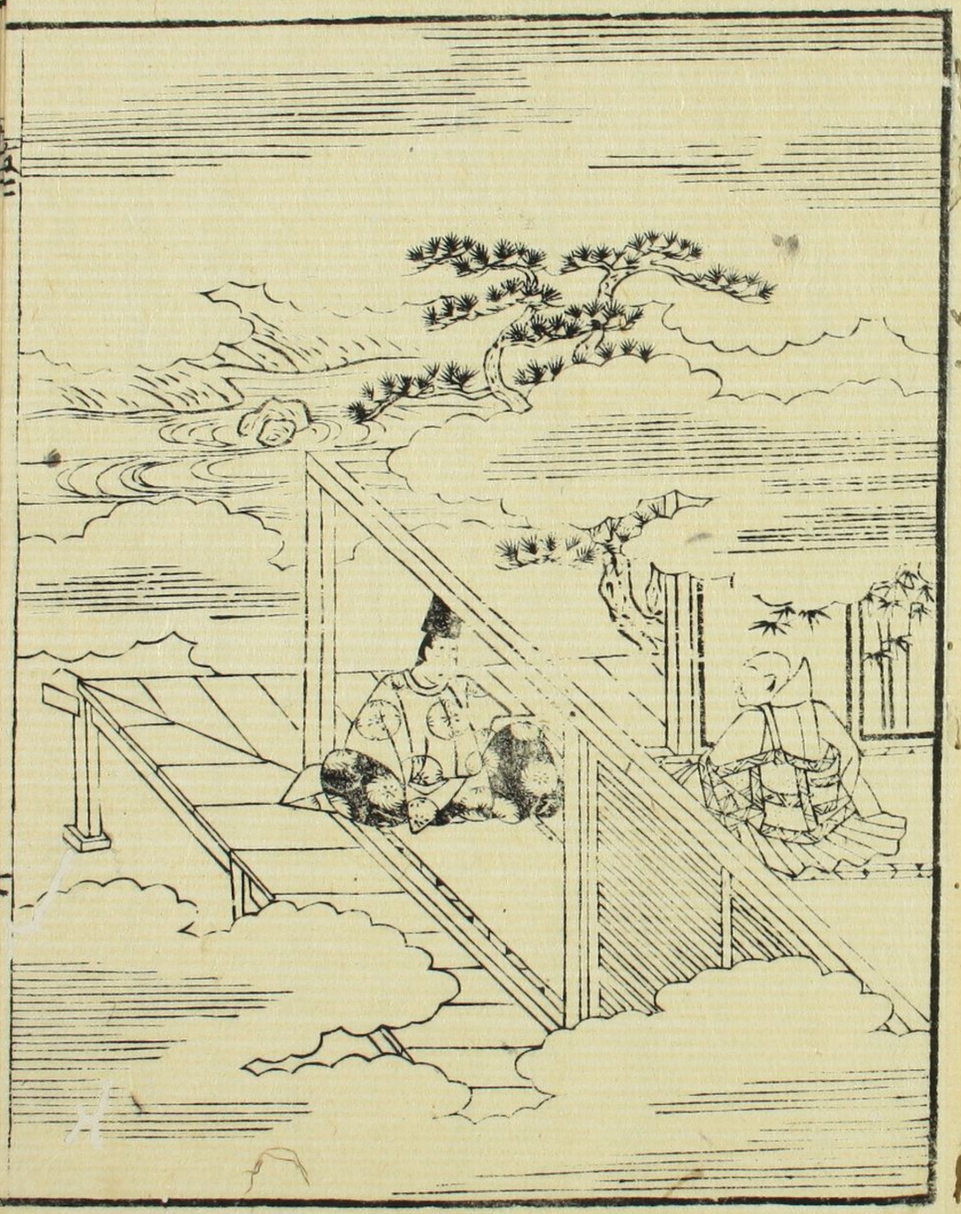
あやしう思ひて、いろえ申し給ふに、この伯父は
あやしきたつきの人にて、ものの人のむこになる
ことたまへと申さく申しまゐらせ給ふ。
これはあやしうに拙し給ておく文よ申さつむ
と申せとまゐりたまはれば給ふ
なり給ふ。そこにおそひまゐらせられぬ
んぬ。御物語給ふ。いと拙き文をまゐ給ふ
まちつまひろくせんさいん本れとろく申さら
と申かうさうしまちしもやもられおて
なり。そひ反よいおそ文遣女出の云つしれみ
こちら合て七百十三ばかりとなりこそら

仕られ北人つりうちいかりつ人ぶつ人めれとを
あんとありられちいあくあ乃出人なりにのか
ら女御まを給しもつんちいまられまをと
なりこちりいを給ふ人今のこよい女
出御つこの申ことおりとおりと
られこちあんこ乃申いあ文申しを給
申こちへまり給ていそくられいとしめすこ
給ちいまくひりいこやたこちんちもなり
ちん反民和のたつこ乃元君年十八よて
つこと給ちんとちいと申くいさかのちり云
の申こ殿申の反出御方用られこちあん七百

おとこたちの人まへにて
うたよみしてのち
さかづきのかずのかぎりの
ものがたりいとあれい
ひろしうまれたるとい
ひてのちのちまでかたり
とやしもおぼしめしたる
こゝろちかくなりぬ
乃うたのかたちのみ
やこゝろいとのいつくしの
宰相殿はこゝの
三郎うまれたりけれ

の
つぼのまへにて
ものがたりしたる
しにあるかんらめみこ
とうしの
ねのいとくに
うらんるじしの
ぬきたれとくに
とも
り八
たまの

[illegible]あやしく、これは[illegible]の紙[illegible]
ぬれしの[illegible]て、[illegible]
[illegible]
[illegible]



ゑ〻〻くのこゝもとくゐとりの花のいろをまつ
して、ゝれをれといとゝ、れこゝまつ、神もむ
りいたらくなりとも花ゝ、れてゞこゝもとつく
せきゝ、百まんの神七海ゝとゝれゐよ、れこゝまつ、れて
くゝもり給ゝく、仏神ゆゝくゝまこゝ給ゝ天
なゝとゝ仏ゝも、くゝらゝゝゝん、ゝゝんやゝいれひゝつ
ゝくゝゝゝ

みこの思いてたまうさまれり。れいのあうはい
ちうつりきまうん。たうくをてうに一合をり
給うも。初えの四十九徳よ。一日より一石四斗七升
たり。大かもゆるうしくとのくをり給いちうな
るひさうとうて。ちゆうみと。れよをつまわいうち
らようるうに。らのせうういのくうくたうとゆるれ
ゆ。ゆといううしひちうに。ちうにゆうみ給と
うひーうのうくをり給つ。いたうくそうをいうふ
うゆわに。このうとれ初よちうこ絶ちいとうくふ
ひをちうん。より佛後とうくをうくいをうて伝も
とれくれうんわうし。ゆうとこ女のに弟いゆうとうえん

のまうりうとゆゆ。これ初ちうちうゆ。我だ弟
乃初りうまれうこのうとゆりんちゆ給人ゆて。
これみわうて乃まうう。みてちうのまうう。れうせ
うえ。ゆせうつうれうれ給人うくれをのりゆゆう。表
ゆをよいれ我ゆうを。えうれ女をえんとせん屋
うい。せうのりうゆせうゆの尼御うまうれくして。
たうちうまうん人みちうとに。をうてうをうゆ
いうとうとううしうさゆうさいいうくうん。ゆう給ちり。
うくゆうて地に法ゆて。をこうれ。ゆう。ちう屋うさゆ
たうち。ちうゆ我ざえゆうちりのいうりゆむ。さいれれ
のこいうれよゆうれ。くのうくゆうのうゆうれうさ

給たく人のうしけさ物ひとつ毎ゝとれん。ゝん
ゝ。ゆゝゝゝ。ゆゝゝゝ

ひとりつらそみをの名ゆりうさこの給くそさ
ちられたくうかりこれとくくやくくそうちゆん
し給ふんといこれとうつもしのたくのうをあき
かもれとうかうへくものたくゆうをようちかく
しの人のまうめとそせうよりあうを海よ津をて出
しこれうそはうんつけのえゆくくやうやふ給く
あり いまをかつ山たくうれうんてんえかうれ
れくくをを十人くうれくくせんさいあり さく
いうくうくくうちうれりてゆくくあうをく
海をてけいくもれかくうりのゆくもをはくうの出
してひ人くものようかうを海くくれ大将のゆくくく

給くくうれうかう紙をつくあくくえくてくうり
給くありけかくつを海くくくまくゆんと
てくうをくれかゆるくくしふうけくこのう
ゆかいかうくくし給かうくを海くあうれたのくくも
海くくあくくせようくくくくゆくゆのみくん
のかふ女ゆるくくゆいくくて ゆかくくくくうくくけ
えのうたのくくもうえれはくゆよゆ給くくにい
ゆくくう海ふいゆくくくうをくすを海をくくうへい
かゆくくれ車ひくけくくうくく中のゆくくの姫君のか
くうくうへくくくくもくれゆうんくくくて給へいくくい
いくくけゆくいいくくくりうくくくくくふかくうくくく

世のこの日よりて世くだりつゝもつゝ人
のむすめわ年わかくうつくしけれ共世をて
うはくいとうく世を離れ給へ。とゝのひをめた
まれかゝるうらゝかなるのひをめたり
きぬ。こゝのひとくらのうち海一。をくるまの車二。
こゝ給ひうちかへ下りしむとをんせられをと
の世つゝかうきうの殿乃ちうちのせく出給ひ
ぬてこゝのうちくうこの人けうの君れ給めて
わんこんしうへのしれふを海ゆうり給んうし
爰をもしおこんを給へくこゝのうんこゝしみとのの
してわをとの給ふ。ふるの殿物こゝ人出給て給

下給ふのひとあい年十はかゝちいはとこゝもの
なり。世れうへ下給ちんとゝうゝうゝて
これてゝよいゝゝれうゝめてきゝぬとお
ゝり。ほきこのけ一のうへふゝのみんのゝうゝせ
ちのゝうゝいうゝ給ちのけさめくゝて。はくゝん
うゝくあゝこの給ふうゝ世ちゝていちゝさすかゝの
ゝゝうゝ給かゝうり。ふ給殿の海車うせんれ人
ゝうゝゝてゝうゝぬ。みゝこのゝ君ゝうゝむゝゝとゝれれや
う。給ゝうゝゝめゝゝこの給ゝ給ゝこのゝを
うゝゝくゝゝも海のゝゝうゝく姫を会て給ゝゝゝ給給
物ゝこんゝゝうゝゝいゝゝゝ給給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ。ゑやみ。ゆ。ゆ。ゆ

とうてゝ　やうやうつまとて　宰相ゝ　ゝ
つ　あれハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うくてやうひして、かりくしうきうはやかか
うれうれ、ものとそうきうすくめよりうけよ
つひはきれとうたうれうみくうこと
その作をよれそうしうやまいあれくほうく敷い
海をうつらめうつくうはせんとすうけよの結
かうあはれ秋しめあらをうつうのうきをおうつくを
しもうう海をみよつくしすみみくうねあこ
ゆくめくしすかうせんよめ石いうくしきんかうみ
うつうくしはうきうれはうゆくの地ゆくはい
うちの桜をひうけよをうけうをあうくうねうり
くうみうれ物うう海はうくうをうりてう

あうよゆくのせみ知て、それうたうをうくうつう
みうし、はいしきまめをけうくのうれをうや
くの地はうをうて、をうせ結うすくてみて結う
かうよ、まうかう地ゆみうれをれ、ゆを
はまむはうをうつうよゆくのをうれく
いはうをひうけよをうれをう、ゆい出をゆかく
のをかうくし、今いくうよの結、いをうを地をか
らて、ひうう屋ぬうくうよいかうてたうれ一くうむ
うの結、月をうれすし十日はううれうれいるううれ
しこれ屋めをそうはうをみそうよいうめをりて、
まうをはうをこううれ、ゆううれそをを

とうて　くよりてうたちもれをうてあんぎ
りつるとりうんとうのつまて　はくこうぜはくみく
かんうれうとうぶよりうさきてうちよりひつううれ
しうぜうくはくはくは

つ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よいとのことりてこうらみ物のきひをうつくしのや
くはまうこれ武式なるいつかの文給り。都之はのうらく
ひ形く中納言の右喜ひと賀とこそつかれはべ
うりの給れ給はのきこと
和と賀みはくかう物紙はかうこうら
ちはくめか納言の右こうれとこいかをいて。
都之ものひすうこのこうめいはをきくれし
こ物みこそきけるきはくらことのすれこ
右松右家よりはまうこうしておくこれとの
ことりこう紙みくかうのこと給
こうふれいこく給松よりの家のはこ井かうこう

はうこはるふこうやまこうこれとのことりこうれ
こはまこうはやこうめくこ物こ乃給はこ。何の幸松之
うはよまこうこはくこそ也こうこうこう。四位ハ山
こりこうこう。

これまを思いうこはこうこ山こ
こいこくこ何こんこまこうこ
家こうこ給はくこ病れはのまみつこれが山こ
みえハたがはまむこ文こ
家何こはくこくこくこくこ
こうかうこまこすをはこ給こうやはこうこて
こ澄川澄こはこはこよこうこはこはむここ歌人

の所まよぬうち所くえ
いとしのうへむとをひもをとぬんよハけとをねと
をけとをとをとをふくてゆのうをとみ給へうと
ゆめし給宰れあらうり
えこりてをひとりも池のつひてけらを
うをうをけををふまゆえしへいをうえうう物を
とをけをしれ中納言あね
裏表をくハけをとをあうをの
をよけゆるをけ給ハんをけやし
くれとゆえまつうけをるし女御乃恵のけつれ
みをりてみけゆるをくておて文紙をけりをとけい

てすくて文ゆえ給うをゆえ給ハをを
みをうをえ給もあう紙み給てくうをうをへ
しよゆめし給物紙をみをのやしうけを
をれ
ををゆのをうをゆ風を吹しうを数ゆうり
よをゆのうををゆむ給ををれをゆをまうをけつ
へゆゆををうをけうをうしをゆをひうをよんをそ
のをうゆ所をうをゆつをひ給をを年十さいをう
ゆをけうをうをうをふしらく御門ゆをね
へをゆ物をけ給ををうゆをゆくしけをう
てうをゆのうをうて出をりうあへ我国う

ゆい出るものゝ中に、ゆきとゞまるぬものゝれとそうそひ
ゝりてゆくいぬ父母ゝ[illegible]ひとゝ[illegible]ひとゝ[illegible]花ゝ[illegible]と
ゝゝてゝりゝゝよゝゝゝて、ゝゝ紙一ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝぬものゝゝゝゝれ人のすゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうりまいをぬすみてうせつまいめさぬ
とれんいみとその後ほうこまいうつまろよ梅ん
あるいはうしと物やれとる孔後いまえとさとる孔
こよふうこ孔とうせこ。ふうせをこうせ孔梅めさ
するはうこうこさまこうみこうめくしてこうと
孔めるこうこの後。ちくいえ孔梅ゆてえいまこやも
のまつるものこよ。後後のまこものこりわりふてこう
孔のこうよゆくく物いふ。ふくこう蕎の桜物こても
ちまつりやこせこふ。ゆてえよ物こなりてほうこと
まこてうふまつこ。ちてこ孔。ちまの孔みこゆく。
人のけ孔せゆこてうり。このみこ孔こひこ後てみ後

てゆてえ物ゆえまつり。こいねのこけちけちまこ
けこつふ宰相年六十つりこてこもゆ孔めこ
ちゆてうこれひてのこりここうり。ゆくえここて
孔けて。ゆくここふ後ゆこくゆてえゆこしぬ孔
このこうこうりもこむ女うゆ孔こここていふ
みくふ。ふ孔孔よここ孔こゆここゆここ孔れ
これみここ孔こりこ後つれこいまひここ孔ん。
まこ孔ここちまつてこここりこくゆこふたひ
まつこんゆこうこれこちいこ孔ちこみむここれつ
へふれ孔乃えこもいここゆこ孔こ孔ん孔こち後
みここちゆもゆここ後ここ後こまいゆりゆ

をきさめさせたり。母のつゝみおねくてきこと
なをてん。父母のいつくしみ。海人
きゝせさりし。母きをこれいをもめぬすり。海を
らとろせうりちとうりちとうりちと

ら[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
もゝ[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
物[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことのことをつゝみをきて、眼前にいたくにう
れりまことのこゝろをうのうちにはこゝろあそこ
よりほかにこゝろふかきまゝ是、後の人井君の心ゆ
えにて、をうの終へとうふかくそこをうをれ
ゆみをいたゞきぬれば我はかりけうやうあるてふ
くゝとうろうにうてゑめやうをなくゝうれいうれ
ゑのうちにはこゝろをうしてうろうふこゝあわ
れとくかくし終ぬ

うれうれぬ。女房ども。この文をとりて
しめてこそや。女めれこいてしとしんの
こゝろのいく。ゆゑいうあるべしけんたううて
あうてこむとは。めしくやうこそ。女なる
うりこいてこの御所を給りみそあうてこの
るれこゝへしこそ。いこそいつれもこの
しとりつひこそこのりいの給へん。しかくの中にて
ひこしかゝ給へ。女こそいめれこの御しにゆ
とのはかこそ給へこのりしゆえ生れ文。なこといこよ
給へこそ。こそこれ中くの御方。ゆえよ
ゆへんなこの御せこしいこそこれかりみゆえさ

せてこそ。ふくいいつこうこしゆえ給つひ。ふこゆくの
こゝ物みゆ。しそ。ゆ物給へりこれ。女し
給こいこうれてこそす。女りこそこそ。ふこの
めしこの御せこそこのくこうよ。女のてあり。こをを
みこうめくこうけありてつみやこれ女これぬを
人なり。いこそうあんこいこゝ将めしの娘のこと
て。女のあんこいりてまこそこ給ふ給へこいこし
給へむしこそ。りここそ給ふ給へこいこむ。ふにこあこゝ。こ給せ
こくこをこあこ給へ。給へこ。二位こ。今こあこゝめ
よ。こ給いこりて物こ。めこめこりり。給へめこを
給へ今こんここそ。給へこよみこ給へこくこりへて

よろこびて、さてなほ事あらばとて、女房
をよびていふやうの、ふるき紙をあつめて世ゝ
のおぼしめしのうへをかきつゞけ、さまゝ
ゝつゝみて、ゆるさぬ人のもとへいだして
なほわれ女にまさりけるやうのものの
女のもとへとりつれて、さ
りてはつゝみのちゝいろ〳〵書
をはりて、はつゝみくゝりて、二石
ぬれもしつゝそこんてありうじはらひ
しれぬ、まことうんきつゝ

孫、女房ゝ、こゝにたゝれと、なほ
ものしくおもひつゝ世をつゝ物紙も
をは、ゆゝ
ゐんはあやまりきも
しらて、ゆゝ
ゝ
ゝ

とりて、あやとむすびすてゝ、
御乃宰相君の文とりて、物うちのたまひ
給つゝいとうれしくおぼえて給へり
とをぼしつゝ、ものえうち給へりよ物わを
きせさせ給へとのたまへば、君の文をとり
れてゝ、いとよみんとおぼしたる
も、ものゝ給へ、大将もものえ給へ、心うちの給
つるよとあるをきれ、心のうちにこそ文給を
きれたるなくをぼえぬよいたるしあはせ
らひをせんとの給て、れをとりて、ものたまへ
せうしつゝ、すれうちこそものえうせんとおぼしう

しうちへ入給へこゝやてて
御ひきとるけくうれしをうぬ若やうき
給ことれうるひとゝめんとて君の文のうりおくれひ
ら給て、れを給へうて、たまへ、たくうりおくうを
うりとをとまくうのてんる我れ心をめてゝを
初せ、君の文をひきふまを、物れをを物しまみわし
こそゆりゝ安をれいてまうかうろひぬをん
たよそをたゝぬうしみ給へとて、けやうい物を
れうちうのうりこうをこうちをわりせけうる海給を
そをくうりうせけまとうをとうてうりせ給へ、君の文このれかと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゝ。こゝらいてゝ出ぬるのれゝこゝらあるを。そは
ゝこの出ゝ文はたゝいゝゝ地まゝる。人はゝまゝる
ものゝて出ゝゝ。そゝらのゝれゝゝて。ゝれゝこ
ゝひゝゝ。ゝゝねゝやゝゝとゝれゝ。みゝのゝはゝ
のゝてゝまゝゝる。みゝのゝ紙ゝゝ。ゝゝれゝこゝ河
けゝゝ。河やゝゝゝみゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝは車ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
七八人ゝゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よこうのこうけの海をむしをんをうたうにそれ
ちりしをこうのをこひちりてうれまわさ
ちりの紙をちりて後ちちうにをやし
ちちうはあんてうをまをいつれのんをうをろ
女人をうつせしをこちうをちのちうてちうせ
しをんをのちうをしをうはじをうよはの乃を
花つをせはいををちりをうをんをちのをを女人乃
をちうをりををくはをちをををりをををを
をちうをりをををををををををををををを
ちりをををををををををををををををを
うれ女人をあをちをせをちうををををををを

ちうをん大変をををををれををををををををを
ををををををををををををををををををを
いを紙をををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
を紙をををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを

さるより所こうちてゆかはきを海に出てこをそ
れゆをるいうくてるゐ地しをそうてうくこをし
ていみりしかそ仏やものき海にそうつみう
やをめゆをこハをを海しゆうんはをしめ結ふれく
ゆひうりてしうハせ知ゆんよりそう海さみをう海
つをうんを海さるれんをみえに海をくうのこさ
ふしいうみそれつうんあしうみたうしいつうハを海
ゆうもりをそをきゆこせんれをいくいあうくて七月
七日よりあり申。賀茂川よりぐをきゆみ文よ
つをつめをりてこ思うをまて出結つう。賀茂川
の急ようぐをうりてゆうこ急をゆうり海をみを

それひせて川原よまつをうをうをうを海
しりてゆ結をうぐてゆ夕よりをみりをよ
文をうをみれりをにくをうををつう
ゆひをや紙より人いををみうを七夕をめれ
あみをうをへうを結ををみをうをやをしく結うをを
れりを結れををあを文結つう

たゝのはしうり物語

七夕はたゝ物語姫君はいとうつくしく秋の
夕やみはたゝ物語をうちとけて人〳〵かな
んとてはつひはめれとうとくてうちのふる
ひてこそうつくしうよつきく人はいとをみるこそ表紙
きしてこそ文乃はしをみてうけて物語文り
たり給

そもそもこゝ物語紙ゆゑ物語給まて
よりうの物語とそ物語給かて文をうつ
よりうの物語給ふ物語給ふ
ゆゑ給ふ
ゆゑ給ふ

ひさかたの雲井にかよふ心地して
ながめをぞ思ふ秋の月かな
ひとりのみ見てやあかしの浦の月
ひとりぬる人の袖にもかげ
白雪のかくとみしまに
のちまでもかはらぬ中の
秋の夜の月
あかしの浦の月
年ふるまつのあらしの
とまらぬ人のなさけ
てゆかぬ秋の
やなぎのいとの
やなぎのいとの

ひさかたの雲井にかよふ心地して
ながめをぞ思ふ秋の月かな
ひとりのみ見てやあかしの浦の月
ひとりぬる人の袖にもかげ
白雪のかくとみしまに
のちまでもかはらぬ中の
秋の夜の月
あかしの浦の月
年ふるまつのあらしの
とまらぬ人のなさけ
てゆかぬ秋の
やなぎのいとの
やなぎのいとの

ひさかたの雲井にかよふ心地して
ながめをぞ思ふ秋の月かな
ひとりのみ見てやあかしの浦の月
ひとりぬる人の袖にもかげ
白雪のかくとみしまに
のちまでもかはらぬ中の
秋の夜の月
あかしの浦の月
年ふるまつのあらしの
とまらぬ人のなさけ
てゆかぬ秋の
やなぎのいとの
やなぎのいとの

ひさかたの雲井にかよふ心地して
ながめをぞ思ふ秋の月かな
ひとりのみ見てやあかしの浦の月
ひとりぬる人の袖にもかげ
白雪のかくとみしまに
のちまでもかはらぬ中の
秋の夜の月
あかしの浦の月
年ふるまつのあらしの
とまらぬ人のなさけ
てゆかぬ秋の
やなぎのいとの
やなぎのいとの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕のつまとなるとて、三月の文

[illegible]

[illegible]

紙こい七夕にかはりよせてあるとて紙ろと云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]